

主体的・意欲的な研修をめざして

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

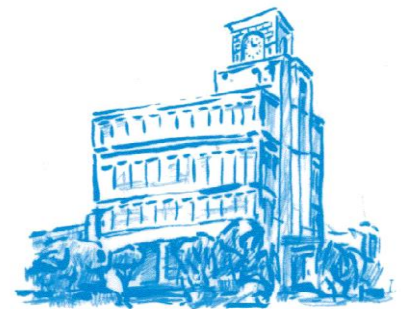
令和4年度がスタートしました。今年度も「新型コロナ」収束の兆しは見えず、「新型コロナ」とうまく共生しながら、学びを止めることなく、創意工夫のもとに教育活動を進めていかなければなりません。

先日、小学校と中学校の入学式に出席しましたが、目をきらきらと輝かせている初々しい子どもたちの姿に接し、改めて、この子どもたちを「一人の自立した人間」として育てなければならないという責任の重さを感じました。

国は、教員の働き方改革の一環として、「教員免許更新制度」を廃止することを決め、関連法が成立すれば「更新制」は、今年7月1日で廃止となり、新たな研修制度が導入されます。この措置は妥当だと思いますが、教員の研修は、管理的なものではなく、意欲を持って主体的に取り組むものでなければなりません。また、教師の学びは、現場に軸足を置いたものでなければなりません。

そこで、校内研修においてどのようなことを心がけなければならないか。大切なことは、①1つ目は、方向性の決定です。これまでの取り組みを定量的・定性的なデータから分析し、エビデンスとして成果があるものは継続、そうでないものはやめる、ということを行っていかなければなりません。②2つ目は、方法の共有化です。異動してきた教員を含め、何をどのように進めるかを共有することです。③3つ目は、カリキュラム化です。学力の基礎となる「授業研究」と、学級経営、特別支援教育、児童生徒理解等、多様化する子どもたちの教育環境の土台を作るための研修を一体化したカリキュラムをつくることです。

総合教育センターでは、新たな目標を持ってがんばる子どもたちの教育を充実するために、今日的課題の解決や教員ニーズに応じた研修などを実施するとともに、各校の『学校力アップ』に向け、アウトリーチ研修等の充実を図り、先生方をしっかりと支援してまいりたいと思います。





P 計画

研究テーマの決定

伊丹の教育、前年度の自校の課題や学力調査、学習状況調査、学校評価（自己評価・学校運営協議会委員）等のデータをもとにした、具体的な目標や研究テーマを**全教職員**で作る。



「研究テーマの設定記入シート」などを活用して、全教職員で考える。

「学力や学習意欲の低下」「生徒指導上の問題や不登校児童生徒の増加」等、学校の抱える課題は様々あります。その解決の方策としては、「教員が一丸となって組織的に対応する」ことが大切です。

伊丹市版「校内研究マニュアル《令和4年4月（改訂版）》」から抜粋

A 改善



研究の評価・改善

成果と課題の把握

- 1年間の研究の取り組みに対するアンケートを実施し、その結果をもとに、校内研修を行う。
- 1年間を通じた研究の成果と課題について把握し、その改善策について話し合う。

研究発表終了後、今年度の取り組みの「成果」と「課題」を明確にする。取り組みの結果からどうしても「成果」に注目しがちだが、長い目で見ると「課題」の方が重要である。学校の抱える課題の改善に向けて、**全教職員**で検討する。また、次年度は、今年度の研究をさらに継続していくのか、それとも新たな視点で研究の方向性を変えていくのか、研究テーマから**全教職員**で見直し、取り組んでいくことで共通理解が図られチームとしての学校づくりに繋がる。**全教職員**で考えることで、教員一人ひとりのスキルアップが図られる。



D 実行 授業研究会



C 評価

児童生徒による授業評価

(1) 「わかる」授業をつくるための基本的な考え方

- ①毎時間の「ねらい」を一つに絞る。
- ②「ねらい」から「振り返り」を意識して、具体的な子どもの姿で目標をイメージする。
- ③授業の「ねらい」を子どもたち自身につかませよう設定する。
- ④③を授業のヤマ場に置いて1時間の授業の流れを組み立てる。
- ⑤子どもたちが思考し表現する活動を評価のポイントとしても意識する。
- ⑥子どもたちが教員の想定する「まとめ」を越える学習が出てくることをめざす。

(2) 「指導と評価の一体化」を意識した指導案や授業の工夫

- ①学校で決められた指導案の書き方を確認する。
- ②教科書や指導書を読み、単元のポイントや教材の本質を理解する。

(3) 指導案の事前検討

授業をする教科が専門でない教員が事前検討会に入ることも大切。

その教科の教員が当たり前だに思っていることが実はそうではなかったことに気づけたり、子ども達に近い視点から内容や授業展開のポイントを検討することができたりして、新しい発見が生まれる。

(4) ねらいの明示と振り返り

日々の授業では、先生と子ども達とともに目標を意識するために「今日のねらい」を黒板に示し、その目標に達成できているかを評価することを全教員で徹底する。

例：「〇〇ができるようになる」
「〇〇を理解する」
「〇〇がわかる」 など

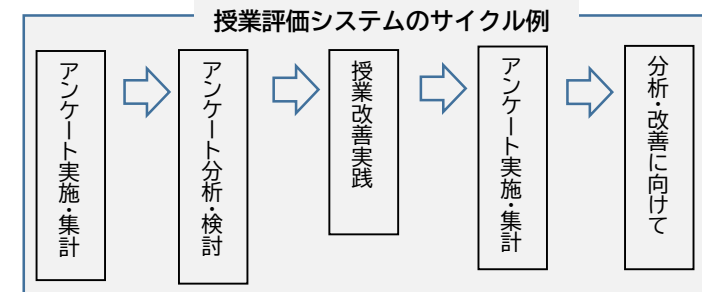
(5) 事後研究会の改善

授業力を向上させるためには、授業後の振り返りが重要。事後研究会では、授業者が「授業を公開してためになったな」と思える事後研究会をめざす。



(1) 授業評価システムのサイクル

教員は「自分ではできている」と思っている、児童生徒にはその思いが伝わっていない場合がある。実際に授業を受けている児童生徒の視点を生かした授業改善を進めていくことが必要。



(2) 参考にするデータ

- 授業評価アンケート
- 全国学力・学習状況調査
- 学校評価アンケート
- Q-U
- 学力調査
- 定期テスト
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査
- 日頃の記録

など

授業力向上

(カリキュラム) 支援センター

授業力向上（カリキュラム）支援センター（通称：カリセン）では、「コンサルティング機能」「ワーキングスペースの提供」「コンテンツの提供」の3つの機能を通して、教職員の自主的・主体的な研究活動を支援しています。またアウトリーチ型支援として学校へ訪問しての指導・助言も行っています。

コンサルティング機能でサポート！

- 経験豊富なコンサルタントが常駐し、教職員の様々な悩みに対応します。
- 授業づくりの支援を行います。

アウトリーチ型支援でサポート！

- 経験豊かなコンサルタントが授業を観に行き、授業づくりや学級づくりについて個別の指導・助言を行います。

ワーキングスペースの提供でサポート！

- 5階の部屋を自由に使えます。様々な人数、用途に対応できるスペースを用意しています。
- グループ活動や情報交換の場としても使えます。
- ICT機器の活用についても個別に相談に応じます。

コンテンツの提供でサポート！

- 教育図書・雑誌が充実。貸し出しもできます。
- PC・電子黒板など、研修に必要な機器を貸し出します。
- プリンタ、コピー機なども使えます。
- 模造紙大まで印刷可能な大判カラープリンタ、一度に100枚までコピー可能なDVD複製機（CDも対応）があります。

コンサルタントの紹介



後藤 猛虎
コンサルタント



塩見 佳則
コンサルタント

コンサルタントからの一言

「もっと授業がうまくなりたい」「もっとまとまりのある学級をつくりたい」など、多くの若い先生方が、日々の授業づくりと学級経営において、どうしたらよいか悩み迷いながら取り組んでいます。カリキュラムセンターは、そのような先生を応援するところです。どうか一人で悩まずにお気軽に相談にお越しください。一緒に考えましょう。

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

＜教育相談＞
電話 072-772-6171（電話相談）
072-780-2484（来所相談）
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
（来所・電話相談）
月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

